

# 行動宣言



国立大学法人和歌山大学は、この間第2期（2010年4月～2016年3月）の中期目標・中期計画に基づいて教育、研究、大学経営を展開してきました。特に2011年1月以来、第2期中期目標・中期計画の重要諸課題を絞り込んだ「2011-2013行動宣言」は、和歌山大学改革のシンボルとして学内外の大きな共感をえて、予算獲得も含めて多くの成果を上げました。2013-2015年行動宣言は、前宣言の成果・到達をふまえ、第2期後半期の焦点的課題を明示したものです。

和歌山大学は、この8つの課題の実現を強く意識しつつ、全構成員の参画と協働で第2期中期目標・中期計画の諸課題を総合的に実現するべく大学経営を遂行します。  
2013年5月31日

## I これまでの研究成果の蓄積及び専門教育の深化と連動しつつ、時代と社会が求める深い教養と、自ら考え、自ら行動し、他者ととともに問題解決に取り組むことのできる実践力をもつ人間を育てます。

- 1 各学部・研究科における特色あるカリキュラムの実践とともに、2012年10月には教養教育に責任を持つ組織として「教養の森」センターを設置し、本格的な教養教育改革に着手しました。大学の構成員（教員・職員・学生）間の連携強化を図りつつ、2014年4月からの教養科目の再編成を目指します。
- 2 キャリア支援・キャリア教育、国内外のインターンシップなどにおいても、問題解決に取り組むことのできる実践力の養成に努めました。今後は、アクティブラーニングなどの手法を導入するとともに、学部・専門領域を越えた協働型の教育プログラムの開発に取り組めます。
- 3 学生の異文化理解力を養うためにASEAN諸国における体験型学習プログラムの拡充を図るなど、学生が主体的に学び続けることができる環境づくりやそのための教育組織・体制の整備を行います。

## II 教育・研究・地域貢献を三位一体として『知(地)の拠点形成事業(COC)』に取り組む、学生が大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するとともに、地域再生・活性化の拠点となる地方国立大学を形成します。

- 1 「地域を支え、地域に支えられる大学」として、これまでに取り組んで来た教育・研究・地域貢献に関する知識と経験を生かし、和歌山圏域の抱える人口の減少や高齢化、地域産業の活力の低下などの課題解決のため、個人・学部の枠を越えた全学的取り組みとして『知(地)の拠点形成事業』を展開します。
- 2 本事業を和歌山大学の重点事業のひとつとして、これらに取り組む学内組織・教職員及び地域における関係機関、企業、NPO法人等を積極的に支援します。
- 3 本事業における研究及びフィールドワークなどの成果に基づき、新たな学生の教育プログラムを構築します。

## III 和歌山大学の教育・研究拠点の整備を進めるため、図書館の施設・設備・機能をさらに充実させるとともに、教養教育、わかやま学、グローバル教育などとの連携を深め、和歌山に育ち世界に羽ばたく優秀な人材の発信基地とします。

- 1 学生が集まる場所、主体的な学習の場所として、図書館を活性化するため、施設の増・改築、設備の充実などを行うとともに、教養科目の「教養の森セミナー」を図書館内で開講するなど教養教育との連携を図ることなどにより、図書館機能を強化しています。
- 2 今後とも、各学部における専門教育の深化、教養教育改革の拠点として、また紀州経済史文化史研究所を中心とした『わかやま学』の充実、国際教育研究センターを中心としたグローバル教育の進展とも連動しながら、さらなる教育・研究機能の充実に努めます。
- 3 これらの図書館機能の強化により、図書館の利用者数は増加傾向にあります。引き続き、全ての利用者の関心に応えられるレファレンスを重視した図書館運営に努めます。

## IV 教育及び地域貢献の基礎となり、和歌山大学という高等教育機関の存立の基盤である研究の充実を図りイノベーションの創出を支援するとともに、学内及び国内外との共同研究や企業・自治体等との研究上の連携を強化します。

- 1 観光学研究の中心拠点の構築と世界レベルの研究への発展、文部科学省が策定する「理工系人材養成戦略(仮称)」に対応した研究の充実や大学院への社会人受け入れの促進など、時機に適したさまざまな課題に積極的に取り組みます。
- 2 教育組織と教員(研究)組織を分離し、限られた学内資源を有機的連携のもとに有効活用することにより研究交流及び共同研究を促進するなど、研究環境の改善に努めます。
- 3 新たな発想を生みだし、それらが成熟した研究プロジェクトに至るまでの過程において、より円滑に研究活動を発展させることができるよう、引き続き、研究組織及び研究支援システム等のあり方について検討します。

## V 和歌山の地域と世界にとって不可欠な防災・災害時支援及び農・林にかかわる教育・研究の充実など地域創造支援事業に全学的に取り組めます。

- 1 和歌山という地域の重要な財産である農業や林業および食、健康、環境にかかわる事業の発展に寄与する研究プロジェクトを推進します。
- 2 和歌山はもとより、我が国及び世界にとって優先すべき課題のひとつである防災・災害時支援等に関する教育・研究プロジェクトについて全学的な取り組みを進めるとともに、関係機関等との連携を図り、外部の有識者等による委員会を立ち上げつつ、地域全体で推進する体制を構築します。

## VI 『ミッションの再定義』を踏まえて和歌山大学の強みや特色を活かしつつ、社会のニーズに的確に対応した教育・研究体制及び組織を再編し、そのために必要な教員組織及び事務組織の改革を実行します。また、大学経営・運営の本質を見つめ、次代を担う人材を養成します。

- 1 『ミッションの再定義』により明確化される和歌山大学の強みや特色を活かし、学長を中心として全学的な教育改革の方針及び実現へのプロセスなどを早急に取りまとめます。
- 2 国立大学法人を取り巻く環境が大きく変化している中で、社会の要請に対応可能な教育・研究体制を再編するため、学部、大学院等教育組織、センター等共同教育研究組織、事務系組織等の改革を進め、限られた学内資源を有効活用することを可能にします。これにより、学生・教職員がそれぞれメリットを享受できるよう配慮し、努力します。
- 3 大学経営・大学運営の本質を見つめ、困難な時代に積極的に立ち向かうことのできる、次の時代を担う人材を養成します。近い将来に大学法人経営に役員として参画できる職員を生み出すこと、あわせて男女共同参画の実現を目指します。

## VII 大学が保有する知的、人的、物的な財産を十二分に活用・広報し、小・中学生、高校生が憧れと入学の希望をもち、地域の人々の声援を受け、地域の誇りとなる大学を目指します。

- 1 和歌山大学の貴重な財産ともいえるべき、教育、研究、人、施設、文化財などに関する情報の交流を円滑に行うことができるよう定期的な研究交流・情報交流などの場を設けます。
- 2 それらの情報を積極的に発信し、地域の皆様に愛される和歌山大学を目指します。また、和歌山の人々に「我がふるさとに和大有り」と思ってもらえるよう、和歌山大学ブランドの形成に努めます。
- 3 小・中学生、高校生が和歌山大学に対する関心と憧れをさらに抱いてくれるよう、「おもしろ科学まつり」「公開体験学習会」「出前授業」等への参加、「学習補充教室推進事業」の受託、オープンキャンパスの充実、図書館見学の受け入れなどを積極的に推進します。

## VIII 大学と同窓会等、同窓会等相互の連携を促し、学生・卒業生の生涯を支援します。

- 1 1949年からはじまる新制和歌山大学以前からの歴史の中で、輩出された有為な人材、母校への高い誇りを持つ卒業生、同窓会とともに、真の「就業力」形成に取り組む、学生が人生の自己決定をできるような支援します。
- 2 学部ごとにおかれている同窓会、後援会の支部及びそれぞれにおける世代を越えた交流・連携を促進するため、同窓会連携室を設置して具体的な方策を検討・実施します。
- 3 自校の伝統と歴史、文化を掘り起こし、自校史教育を学生の教育プログラムに取り込みます。また、継承された貴重な資料等を整理し、広く公開することにより、自校への愛着や誇りを醸成します。